

「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の提供を目的として、発行していきます。

3年経験者研修 授業充実研修Ⅰ（小・中）

平成26年5月13日（火）実施

授業づくりの充実に向けて ～小・中9年間を見通した学力向上を図るために～

講師：高知市教育委員会 谷 智子 教育委員長

1 はじめに

採用から3年目は、大きな節目の年である

分かれ道

- ホットしている → 伸びのない教師になってしまう恐れ
- 課題意識をもち続ける → 学び続ける教師になれる可能性



2 授業とは

授業の三層構造

教育のプロとして、毎時間到達目標に達していることが重要

教科力
専門性
全教科共通
指導方法
人間関係

授業＝積極的な生徒指導

学校生活の大半は、授業

⇒ 「児童生徒を大切にする＝授業を大切にする」

《授業（生徒指導）の三原則》

- ① 自己決定（内発的動機）
 - ② 社会性（かかわり合い）
 - ③ 自己存在感
- 児童生徒のやる気を高め、毎時間の到達目標に達するための三原則

3 小中連携の重要性

教科の系統性を意識する

小・中9年間

どの学年を担当しても、中3（出口）をイメージする

C基準の子どもをなくす！

小・中9年間を意識して、今担当している学年に責任をもって！

考えさせる授業を構想する！

子どもの責任にしない！

小学

小学校で身につけていない学習内容を、中学校でつけることは難しい！

中学

小学校でのさまざまな活躍を踏まえて、中1での目標値を高く設定して、中学校生活をスタートさせる！

4 学校経営計画と自分の授業

- ・ 学校経営計画に基づいて、学校組織として授業に取り組む
- ・ 日々の授業は、学校経営の重要な一翼を担っている



5 小・中学校ともに授業で大事にしたいこと

学力向上の可能性をはかるチェック項目

次の五つの取組を日々続けていくことで、子どもたち自身がわかる喜びを実感する
⇒ 結果的に学力が上がる

- ① 目標を示す
- ② 自分の言葉でまとめさせる
- ③ かかわり合い
- ④ 言語活動を仕組む
- ⑤ 探究活動を仕組む

継続は力なり

6 終わりに

100点の授業はない。100点の授業をめざす教師であってほしい。

小・中学校ともに、一つの教科（分野）の専門性を高めてほしい。



フランスの警句家ムーリエの「意欲のある者のほうが、能力のある者よりも多くの事をなす」という言葉を心に留めて頑張ってほしい。

当たり前のことを当たり前に、徹底して続けていくことを大切にしてほしい。

受講者の感想

- 小・中9年間を見通した教育をしていくというお話を聞いて、初めて意識することができたし、印象に残った。
- 谷教育委員長の講話の中で、印象に残った言葉は「授業で生徒を育てる」という言葉である。日々、生徒と関わりあう中で、授業を一番に考え、分かる授業、楽しい授業をしていきたい。

平成26年度 第1回道徳教育研修会

日時：平成26年5月16日（金）実施
対象：高知市立小・中学校道徳教育担当教員
及び参加希望教職員

目的 道徳教育の要である道徳の時間における指導を充実させるための方策についての協議や研修を行い、道徳教育の一層の充実を図る。

研修Ⅰ【公開授業】「あるレストランでのできごと」

授業者：土佐山中学校 濱谷 浩永 教諭

- 1 主題名 相手を思いやる心
(内容項目2-(2))
- 2 ねらい 若い夫婦の注文を受けた後のキャスト
(主人公)の行為を考えることを通して、
相手の気持ちを察して行動しようとする
心情を養う。
- 3 資料名 あるレストランでのできごと
(日本文教出版「あすを生きる」)

本授業では、学年間を超えた発表
や他学年の意見を聞く場面を設ける
ことにより、言語活動の充実を図り
ながら心を育むという目的で、全校
道徳授業を実施した。



【参観者の感想・意見】

- ・ 生徒が発言しやすいしとりとした雰囲気授業だった。また、生徒の発言を他の生徒に復唱させることで、授業に集中できていた。
- ・ 肯定的評価がすばらしく、改めて日頃からの生徒たちとのつながりの大切さを感じた。

研修Ⅱ【講評・講話】「道徳の時間の指導の充実」

全体講師：畿央大学教育学部現代教育学科 島 恒生 教授

道徳教育では、自立（自律）した一人の人間として、他者とともによりよく生きる人格の形成をめざす



どのような道徳の授業を展開すればいいか

- ・ 教師も子どもとともに人間の生き方について考え合う授業
- ・ 伝達型の授業ではなく、子どもに考えさせる授業
- ・ 思わず隣の仲間と話したくなる授業
- ・ 思わず隣の仲間の意見を聞きたくなる授業



本来の道徳の授業は、教師が発言することを控え、子どもの考えを引き出すことで、「子ども理解」が深まる。

道徳授業において、活用型の授業（思考力を育む授業）をすることで、教科の授業も変わってくる。

子どもたちは、日々の生活の中で、心の中にダイヤモンド（＝よりよく生きようとする心）を貯めこんでいる。

そのダイヤモンドは、子ども自身は気付いていない原石の状態であり、道徳の授業を通して、気付かせ、よりよい生き方について考えさせていく。



高級レストランの授業（よそいきの授業）

生徒は、失敗しないように、恥をかかないようにしているので、自分の心を開くことは難しい。道徳の授業には適さない。



居酒屋の授業（ふだんの授業）

ワイワイ、ガヤガヤした雰囲気の授業。本音が語れる授業。友だち同士で交流する授業。道徳の授業に適している。

今日の授業について子どもが自分とのかかわりで考えるために

授業の

Before

子どもたちは思いやりについてどう考えているか

- ・ 相手に踏み込まない
- ・ 気付かない
- ・ 自分のことで精一杯
- ・ 相手の思いは他人事

After

子どもたちの思いをどのように広げ、深めるか

- ・ 相手を深く理解する
- ・ 相手に深く共感する
- ・ 相手の思いに応じて行動しようとする

授業を通して、子どもたちを「After」の思いへと広げ、深めていく授業展開や発問を考えていく。

【受講者の感想】

- ・ 道徳の授業と日々の教育活動はつながっているので、道徳の時間では熱く語らず、日々の教育活動の中で熱く語り、日常的な子どもとのかかわりを大事にしていくことの重要性を学んだ。
- ・ 生徒の発達段階に合わせて発問を変え、中3に対しては、かなり深く、これからの生き方に関わる考えを深めていきたい。また、ともに考え合う授業をしていきたい。
- ・ 一方的に伝える授業から、考えさせる、ともに考え合う授業の実践の必要性を強く感じた。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。